

“絆”きずな

訪問リハビリテーション振興財団第3回合同研修会開催報告

訪問リハビリテーション振興財団の第3回合同研修会が3月19日・20日に気仙沼プラザホテルで開催された。今回は「浜通り」「ゆずる」「気仙沼」の各事業所職員に加えて入職予定者の参加もあり財団役員等も含めて30数名の出席があった。深浦順一ST協会長、中村春基OT協会長の講演の他、松井一人事務局長から「振興財団の事業所が果たすべき役割」について、また、地元気仙沼医師会の村岡正朗副会長からは「訪問リハビリ期待と連携」をテーマに本振興財団事業所への熱いエールをいただいた。報告「各事業所の取り組みと展望」は資料としての活用価値は高い、詳細も含めて是非欲しいと半田一登理事長から高い評価を得た。昼の緊張から開放された夜の交流会では入職予定者もリラックス、すでに配属予定事業所の職員の一員になりきって楽しんでいた。

一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 監事 井上 保

訪問リハ・地域リーダーの“絆” ご当地紹介⑩ 石川県編

石川県の実務者研修会は、三士会からの推薦者を集めての「石川県訪問リハビリテーション連絡会」が、企画・運営を行っています。幸いにも、経験豊富なPT・OTが当初よりメンバーに入っていたので、当時週1しか訪問に出ていなかった私は、教えてもらえばかりでした。“ベテラン”の方が、経験や知識が明らかに不足しているSTとも足並みを揃えようとしたことが、STの訪問を促進するとともに、プログラム編成にあたり「これから訪問へ」となる病院・施設勤めのPT・OTへの温かなまなざしになっています。また、県の補助金を活用して参加費を廉価にできたことも、多くの受講を促す要因になりました(今年度以降は厳しくなる)。

石川県訪問リハ・地域リーダー 言語聴覚士 竹内 満
ものがたり訪問看護ステーション

南から始まる訪問リハビリテーションの魅力 in宮崎県

「天ヶ城の桜は綺麗よ」「西都原の桜は咲いちよらんよ」利用者さんやご家族との会話です。今春はこの会話から始まりました。「今年の桜が最後になるから見に行きなさい」主治医から言われたと伝の心で報告してくれた利用者さんもいました。4月14日以降は、「避難所は〇〇」「避難した際の嚙下食を用意した」へ変化しました。利用者さんやご家族と避難所までの移動手段や避難所生活を具体的に話し合うきっかけになりました。その時々で起こった生活の問題に対し、迅速に対応し解決策を見出すことができるのは、訪問リハビリテーションならではの感覚です。「あの店の桜餅は舌だけでつぶせますよ」この会話で今春の終りを感じました。

宮崎県訪問リハ・地域リーダー 言語聴覚士 児玉 睦代
潤和地域包括ケアセンター 訪問看護ステーションやわらぎ

＜訪問リハ振興財団よりお知らせ＞

日頃より一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団の活動にご協力いただきありがとうございます。さて、今回は広報誌「絆」の原稿を募集します。テーマは昨年度より皆様にご協力いただき、ある一定の成果が報告されている訪問リハにおける「活動と参加」の事例です。訪問リハビリテーションを利用したことで地域資源等に移行できサービスが終了したケース、自主的な活動が定着し笑顔あふれる生活が過ごせているケースなど生き生きとした生活が送れるようになった事例を皆で共有し、さらには多くの方に知っていただけるよい機会ではないかと考えています。多くの投稿をお待ちしております。

テーマ：訪問リハビリテーションにおける活動と参加の事例
文字数：300～350文字＋活動風景の写真
募集期間：適時受付
投稿先：一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団 事務局